

# 幼稚園の問題 いろいろ

〈2〉

以上のような問題をここで考えてみたい  
と思います。

## 声のかけ方

数人の子どもたちが、製作のコーナー  
で、各々の作品にとりこんでいます。一人  
の子どもが、先生のそばに行き、

「せんせい、ライオンつくる」

先生は、紙を渡し、材料のおいてある所  
を示しました。材料をいじりながら、その  
子は、

「ぼく、ちゃんと立つライオンをつくる  
んだ。でもつくり方わからないんだもの」  
先生は、動物の絵本を棚からとり出し  
て、

「これ、見たら。それから箱を使うんだ  
ったら、あの戸棚の中に入っていますよ」  
といって、他の子どものところに行ってし  
まわれました。しばらくしてその子ども  
は、ライオンをつくり上げて、先生のところ  
に見せに行きました。

先生は、ちょっと「せんせい」と外か  
らよぶ声に気をとられて、ちょっと見て、

「そう、よくできたわね」とおっしゃっ  
ただけで、その場は、終ってしまいました  
た。

もし、子どもが、つくり方をたずねたと  
き、その同じ問を今度は、先生が他の子ど  
もたちにむけ、たとえば、

「○○ちゃんは、立っているライオンを  
つくりたいんですって。どうしたらちゃん  
と立つライオンができるでしょうね」と、  
提案してみたら、結果は、どうなったでし  
ょう。他の子どもにも考える機会を与えた  
ことにもなりますし、その子どもも、その  
製作コーナーの一員として、改めて認めら  
れたことになったでしょう。単に、子ども  
に材料を提示するための話しかけに終わら  
ずに、その子どもだけでなく、他の子ども  
にも発展するような話しかけがなされるこ  
とは、大切なことです。

## ○教師の話しかけについて

- ・どんな意味をもつのか
- ・子どもにどんな影響を及ぼすか
- ・どんな話しかけが、子どもの遊びを  
発展させるのか

時として、子どもは、すぐれた創造性を示します。その素晴らしいをとりあげることも、先生の声のかけ方によります。それをもっと伸ばすこともできますし、そのまま、終わらせてしまうかもしれません。また、先生の声のかけ方によっては、他の子どもにも、新しいものをつくりだすきっかけを与えることとなります。

#### 機会をとらえる

誰も砂場で遊んでいないのをみつけて、一人の男の子が、道具置場から汽車を出してきました。そして、砂場のふちにそってぐるっと長い線路をえがき、

「ビー、ポー、大阪行き」といいながら、ひざをつけて、汽車を動かし始めました。そこへ鬼ごっこにあきた他の組の子どもが、シャベルをもってやってきて、その長い線路の上をふんで砂場の真ん中のあいた所にいこうとしました。

すると汽車を動かしていた子が、

「ふむなよ！これぼくの線路なんだよ」

「だって、ぼく山つくりたいんだ」

「でもだめ、入っちゃだめだよ」

と、いい合いになりました。

そのとき、

「ずいぶん長い線路が、できたのね。お山もできるの。どんなのができるか楽しみね」といいながら、先生が、ニコニコしながら、通りすぎていらっしました。

二人は今争ったことも忘れたかのよう

に、一人は、

「ビー、これ新幹線だぞ」といいながら、ものすごい勢いで砂場を一周し、もう一人は、

「高い山にするんだ。ぼくずっと前に山に登ったよ。それに新幹線だって乗ったことあるもん」

二人は、それからしばらく、何かいいながらそれぞれの遊びに満足しているようすで遊んでいました。

つけ、満足して遊びを続けるさせることになりました。けんかになってから、同じことをいってもこのような結果はでてこなかったでしょう。ちよūdよい機会をとらえることは、むずかしいことですが、とても大切なことです。

#### 教師の態度

話しかけをする際の教師の態度は、大きな意味をもつと考えられます。なぜならその話しかけが、子どもに受け入れられるか、否かを左右させるからです。あまり計画に追われたり、心にゆとりがないと、教師の態度全体に表われてきます。そして、しらすしらすのうちにかたい感じで融通性のない態度をつくりあげます。

子どもは、毎日、少しずつ成長していません。おとなももっと意欲的に活動し、学ばなければなりません。教師によらず、子どもに接するおとなは、常に心を広くもち、ゆとりある態度をもち続けたいものです。

(編集部)